

～映像と斜陽

statement 2

一応のオチは与えられた。しかし一向に終わる気配がない。目の前を犬が通る。犬は物語を知らない。机の下に潜り込み、首のあたりを絨毯に擦り付けているように見える、かと思えば体を起こし、スタスタとどこかに行ってしまう。犬があちらからこちらに歩くなら、私はそうした映像を与えられる。あちらにはあちらの映像が与えられる。犬は窓の外を見ている。私が犬をみるので、犬はこちらを見る。映像は他の映像となにも関係をもたずに滞りなく流れていくことはできない。窓から陽が差し込む。私の見る映像と、犬の見る映像が陽を誘う。それは時間を持たない。映像をつなげ変え、分岐させ、淀ませる。常にそうしたことに晒されるわけにもいかず、私たちは判断をする。整理し、私たちが脅かさないように、あるいは楽しめるように組み上げる。しかし映像は未だ続いている。陽も射している。犬があちらからこちらに歩く、こちらに見向きもせず歩いていく。犬が歩くそれに合わせて、陽は傾きを変えていく。